

平成30年度和歌山県文化奨励賞

ほそ 細 まさ き 将貴

住 所 東京都文京区
出身地 和歌山県和歌山市
生年月日 昭和55年8月22日

◎ 業績及び経歴

昭和55年に田辺市に生まれ、和歌山市で育つ。平成15年に京都大学総合人間学部を修了、平成17年に同大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科を修士号取得退学。平成20年に同大学大学院理学研究科生物科学専攻の博士課程を修了し、同年東北大学にて日本学術振興会特別研究員となる。平成23年には同海外特別研究員としてオランダ・ナチュラリス生物多様性センターに在籍し、平成26年には京都大学白眉センター特定助教を務める。

生き物の進化や生態を研究のテーマにしており、主にカタツムリを捕食するヘビとカタツムリの左右性を題材に、捕食者・被食者の共進化と種分化についての研究に取り組んでいる。

研究により、「カタツムリを捕食するヘビは右巻きに対応するように顎が左右非対称に進化し、その結果、突然変異で生まれた左巻きカタツムリが有利になり、右巻きから左巻きの種への進化が起きた」という捕食者のヘビと被食者のカタツムリにおける進化史の一端が明らかになった。

カタツムリの右巻き・左巻きは、1個の遺伝子で決まり、種の分化に関わることが分かっていたが、この研究から生存にも大きな影響を与えるということが分かった。従来は「1個の遺伝子の変異が大きな効果を持つ場合、その変異はたいてい悪い影響を及ぼすため進化そのものにはつながらない」、また「種の分化は小さな効果を持つ遺伝子の変化の積み重なりで起こる」と考えられていたが、これらの一般則に再考が迫られることとなった。

これら一連の研究成果は高く評価され、平成26年には科学技術分野において顕著な研究業績を上げた40歳未満の研究者に贈られる文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞した。

さらに、一般書の執筆や講演等を通じて生態学の面白さを精力的に伝えることでも高い評価を受けており、わが国を代表する若手科学者の一人として、さらなる活躍が多いに期待されている。



■ 現 在

- ・東京大学大学院理学系研究科特任助教
- ・日本進化学会代議員
- ・種生物学会幹事
- ・日本動物学会Associate Editor at Zoological Letters
- ・文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員

◆ 主な表彰歴等

- 平成23年 日本進化学会「研究奨励賞」
- 平成26年 科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」
- 平成26年 日本動物学会「成茂動物科学振興賞」
- 平成27年 日本生物学会「宮地賞」